

石川音文協



発行：石川県音楽文化協会 金沢市 平和町 1-3-1 石川県平和町庁舎内 TEL 076-280-4311 FAX 076-280-4399 E-mail imca@po3.nsknet.or.jp



リッツに ミサ・ソレ響く

10月・石川音文協オーストリア公演

石川県音楽文化協会
などは創立50周年関連
事業として10月20・27
日にオーストリア公演
を行いました。

リッツのブルックナ
ーハウスでは、県合唱
協会合唱団が大切に歌
い継いできたベートー
ヴェンの「ミサ・ソレ
ムニス」を現地のブル
ックナー管弦楽団、合
唱団と総勢170人で
披露しました。ベート
ーヴェン晩年の最高峰
と言われる壮大な響き
に、現地の音楽ファン
からも温かい拍手が贈
られました。

オーストリア公演に
は県合唱協会、金沢邦
楽アンサンブル、県三
曲協会の64人が参加し
ました。

20日には小松空港で
出発式が行われ、団長
の上口大介音文協理事
長があいさつ、今回参
加できなかったメンバ
ーも見送りに駆けつけ
てくれました。

一行は羽田空港、フ
インランドのヘルシン
キで乗り継ぎ、小松空
港を出発してから約27
時間かけて、「音楽の
都」ウィーンに降り立
ちました。

ブルックナー管弦楽団 合唱団と夢の共演



リンツ近郊で生まれた作曲家ブルックナーの名を冠したブルックナーハウスで24日、ミサ・ソレ公演は行われました。

ミサ・ソレは合唱曲の中でも屈指の難曲とされ、プロ、アマとも披露される機会は限られています。県合唱協会は1970年にアマの合唱団として日本で初めて同曲に挑み、以降60回の公演を重ねています。合唱団にとつ



て、特別な曲なのです。リンツでの公演が実現したのは、ウィーン国立音楽大学のダニエル・リントン教授を石川に招き、2度にわたってミサ・ソレ公演の指揮をしていたことがきっかけでした。石川の合唱団の取り組みが認められ、指



揮者のマルティン・ツエラー氏を紹介していただき、今回の公演につながりました。一行は、ウィーンに到着した日から、長旅の疲れをものともせず、バスで片道約2時間半かかるリンツとウィーンを往復し、リハーサルや交流を通じて、現地の管弦楽団、合唱団と絆を深めました。

その日々が実り、公演当日は心を一つにベートーヴェンの大曲を披露することができました。客席には日頃か

ら音楽を楽しむ地元ファンが詰めかけ、音楽を通じて心を通わせていました。公演後にはサプライズも。ブルックナー合唱団が歓迎と感謝の気持ちを込めて、地元の人々をアカペラで歌ってくださいました。手作りのお菓子を用意してくれたメンバーもあり、両合唱団は今回の公演実現の喜びを分かち合うとともに、別れを惜しみ、再会を誓いました。



リントン氏(右)

石川の文化紹介



再会を誓う

22日にはリンツの州庁舎で「日本文化体験フェスティバル」が開かれ、両合唱団がそれぞれの文化を紹介しました。

音文協の一行は加賀水引、生け花、茶道、着物の着付けを紹介し、箏、尺八の演奏を披露しました。好奇心

旺盛な現地の団員は箏や尺八を弾いたり、抹茶と菓子を味わったりして石川の伝統文化に触れ、目を輝かせていました。

伝統のディアンドルと呼ばれる民族衣装を着た団員もあり、互いの文化に理解を深めました。



席上、上口団長が、オーバーエスターライヒ州知事あての馳浩石川県知事（石川県音楽文化協会会長）の親書を届け、震災復興を祈念して輪島塗の花瓶を



贈りました。

親書を受け取ったマルゴット・ナッツァル文化社会課長は、昨年に生誕200年を迎えたブルックナーがもつと日本で知られてほしいとし、「石川とリンツの交流が実現できたことは大変に意義深い」とあいさつしました。



「音楽の都」ウィーン カールス教会に歌声

「音楽の都」ウィーンのカールス教会で23日に開いた「邦楽&合唱コンサート」は、一行

にとって貴重な機会となりました。

カールス教会は、旧市街の世界遺産「ウィ

ーン歴史地区」に位置し、バロック建築の最高峰の一つに数えられ

ます。バロック画家ロットマイヤーによって描かれたフレスコ画も見どころで、連日多くの観光客が訪れています。

この歴史ある教会でのコンサートは、ミサ・ソレ公演で指揮したマルティン・ツェラー氏が教会のオルガン奏者を務め、教会との橋渡しをしてくれたことで実現しました。

特に、箏や尺八などの和楽器がカールス教

会で演奏されたことは過去に例がないそうで、ツェラー氏は和楽器の音が教会にマッチするか心配もしていたそうです。

しかし、ふたを開けてみれば、箏や尺八の音は教会に見事になじみ、雅びな音が美しく響き渡りました。初めて和楽器の音色を聴いたという現地の人々は、スタンディングオベーションで和洋の共演をたたえました。





今回披露したのは、
箏と尺八による「月下
美人」、合唱が加わっ

ての「さくら」「千鳥の
曲」、そして合唱団によ
る「3つのマリアの歌」

(周藤諭作曲)です。
指揮は合唱団を指導
している音楽監督の石

川公美さん(ソプラノ
歌手)が務め、ソロの
歌唱でも聴衆を引き込

みました。

当日は、あいにくの
雨にもかかわらず、ミ
サ・ソレ公演で共演す
るブルックナー合唱団
のメンバーもリントッ
から駆けつけるなど、多
くの聴衆が演奏、歌声
に聴き入りました。

とりわけ合唱団のメ
ンバーを感動させたの
が、教会の「残響」で
す。音を発し終えてか
らも続く響きのこと
で、カールス教会では
5秒の残響があったそ
うです。一行は教会な
らではの荘厳な響きを
胸に、「音楽の都」での
大舞台を無事に終えま
した。



～名曲の生まれた土地の



風に吹かれて～



一行は多忙な公演スケジュールの合間を縫って、観光も楽しみました。

たくさんの音楽家が暮らし、名曲が生まれた街。晩秋のウィーン、リンツ、ザルツブルクを歩き、風に吹かれながら、音楽の本場の空気を肌で感じることができました。

オーストリア公演を通して磨いた感性は団員たちの大きな財産と



なったことでしょう。



一行がウィーンに着いたその足で向かったのがシェーンブルン宮殿です。16人の子を産んだ女帝マリア・テレジアが好んだイエローの外壁は美しく、豪華な宮殿内部や庭園は見どころたっぷり。末娘のマリー・アントワネットは15歳でフランスに嫁ぐまでこの宮殿で育ちました。



翌日からは『雪中の狩人』や『バベルの塔』などのブリュッセルコレクションが充実した美術史美術館を訪れたり、ベルヴェデーレ宮殿でクリムトの『接吻』を鑑賞したりと、思い思いに過ごしました。

国立オペラ座、シュ

皿いっぱい大きなカツレツには驚きました。

ミサ・ソレを作曲したベートーヴェンのお墓まで足を延ばし、公演の成功を願って手を合わせた団員もいました。道中、黄色く色づいた木々がとてもきれいでした。

ミサ・ソレ公演が行

われたリンツは、ドナウ川の流れに寄り添う美しい街です。モーツアルトが交響曲「リン



ツ」を書き、ベートー



番」をこの地で完成させています。朝の散歩を楽しんだ団員もいました。

◇ ◇

ど、駆け足でしたが、それぞれに思い出を心に刻んでいました。

ザルツブルクでは旧市街を散策し、モーツァルトの生家を訪れました。ホーエンザルツブルク城を望み、映画「サウンド・オブ・ミュージック」のロケ地で「ドレミの歌」が歌われたミラベル宮殿を歩くな

最終ページでは、ミサ・ソレ公演を指揮したマルティン・ツェラー氏から音文協にいただいたお令状の抜粋と、オーストリア公演に参加した団員（敬称略）をご紹介します。



この度、貴団がオーストリアまでお越しくださり、私たちと共にベートーヴェンの《ミサ・ソレムニス》を演奏していただけたことは、私たちにとって大きな名誉であり、またこの上ない喜びでした。リンツのブルックナーハウスにて、貴団という素晴らしい日本の合唱団と共演できたことは、私たちの合唱団にとっても忘れがたい、特別な経験となりました。

また、日本の伝統芸術の素晴らしい演奏を披露してくださり、心より感謝申し上げます。貴団のおかげで、私たちは日本文化への理解を深めることができました。ご厚意により頂戴した数々の贈り物、そしてご紹介いただいた楽器の数々は、私たちにとって大切な宝物となりました。あらためて、遠路はるばるお持ちいただいたすべての品々に感謝申し上げます。

今でも、私たちの合唱団のメンバーは、貴団と過ごした特別な時間について語り合っております。音楽を通じて、皆様のご親切と寛大さ、そして卓越した音楽的才能を分かち合っていたいただいたことに、心より御礼申し上げます。

深い感謝と温かい思いを込めて

マルティン・ツェラー

2025年11月4日 ウィーンにて

オーストリア公演参加者

団長 上口大介（石川県音楽文化協会理事長・金沢市音楽文化協会理事長）

音楽監督・指揮 石川公美（ソプラノ歌手・合唱指揮）

副団長 佐藤修（石川県歯科医師会副会長）、谷保喜一（石川県合唱協会合唱団団長）

顧問 盛本芳久（石川県議会議員）、柿本章博（金沢市議会議員）

●石川県合唱協会合唱団

ソプラノ 池島とも子（会計）、池本久美子、大島千秋、河原尚子、北村栄美子、小関理穂、杉原由紀子、寺西俊子、中源和子、永栄久代、堀井雅子、三階尚子、見崎麻由佳、増山美音子、宮本秀子、矢寄満智子、安田世津子、横川かおる

アルト 相河一美、相原征代（通訳）、浅野久美子、稲葉幸子、倉島由紀子（事務局）、紺谷泰子、斎藤きよみ、土肥千寿、苗代律子、東方郁子、平野佳子、福村和佳子、守田八映子、吉谷久子、野島栄子、藪谷和子、山岸良子、吉田瑞躍子

テナー 池野孝、柿本章博、斉藤章、田中健太郎（通訳）、谷保喜一、谷本充

バス 荒尾洋光、大島功次、上口大介、佐藤修、佐藤哲夫、塚本孝久、矢寄孝裕

●金沢邦楽アンサンブル 小坂米子、地渡有希、徳本順子、浜田裕子、林春美

●石川県三曲協会・尺八 盛本芳久、山田恵一

●日本文化紹介 加賀水引:山岸佳子、池島とも子、生け花:水上富美子、茶道:林春美、着付け:寺西俊子

●一般参加 相河親人、新谷浩美、野島宏英、盛本立子

●広報・記録 本江亜珠佳